

ソウルの尼僧と曼荼羅



裕彦

ソウル市を見下ろす標高836^{フィート}の北漢山のふもとにある韓国仏教「法性宗」の寺院「慈悲精舎」を同僚と訪れた。法性

宗は、新羅の高僧、元暉（617～686年）が起

した宗派で、そのトップを務める妙心尼に会うためだ。

妙心尼は、人の運命や能力を推察する「四柱推命」

が「当たる」と評判で、政財界に知己が多いことで知られている。ベストセラー作家としての顔も持つ。

記者生活25年。仏教関係者への取材経験はほとんど

なく、しかも外国ということもあり、ドキドキしな

が訪れた。

お堂には当選前の尹錫悦大統領や、朴槿恵元大統

領らが寺を訪れて、妙心尼と面会した写真が飾られて

いた。この2人は保守系だが、政治的には激しく対立

する進歩系の首相経験者の写真も複数あった。この寺

が、昨年まで大統領府が置かれていた「青瓦台」から、

車で10分程度の距離に位置していることも関係して

いるのだろうか。

有名なスポーツ選手や芸能人が訪れた様子を収め

た写真もあった。日本よりも、四柱推命への敷居が低く、かなり親しんでいる韓国社会をのぞき見たようで、その是非はともかく、とても興味深い。

こちらの予想に反し、70歳前後に見える妙心尼は、とても快活で、楽しい人だった。妙心尼によると、寺院には、法華経信仰を広めた日蓮（1222～82年）が直接書いたという曼荼羅も收藏されている。韓国国内では、まだ文化財登録されていないという。

窃盗対策で公開していないため、収蔵品のコピーを見せてもらう。確かに「日蓮」と見える署名はあり、「南無妙法蓮華経」「宗祖御真筆 夕顔御本尊」「天照大神」などとも墨書されていた。

「日本の仏教は、朝鮮半島から伝わった。日本で生まれた曼荼羅が、ソウルの寺院にあるとは思議な縁ですね」。そう伝ええると、妙心尼は「日韓関係は今、改善の道を進んでいるので、日韓の仏教界も、この曼荼羅を通じて交流を深めることができればうれしい」と笑顔で話していた。

今年10月中旬には、交流のある日本の仏教関係者も招待して式典を開き、曼荼羅をお披露目する予定だという。